

若者が集い回帰する”ふるさと小山”プロジェクト

地域: 小山市

パートナー名: 森泉幸枝

14班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤学科

石渡大夢 前野有咲
徳竹智可良 渡邊菜月
島崎湧馬 篠本 宏太

背景

小山市の人口は令和2年11月1日時点で167382人、観光客数は年間約330万人である。人口は近年減少傾向にあり、2040年には1980年と比較すると51%程度の人口減少が予想される。特に大学を卒業して就職する年齢期にあたる20~24歳の転出が多く、東京都や埼玉県、千葉県などに転出している。平成27年、小山市に住む20歳の若者に行われた小山市民意向調査では「小山市に住み続けたいか」という質問に住み続けたいと回答した割合は約4割だった。市内に働きたい場や娯楽の場がないことなどを理由に市外で働き住みたいという意向を持っている若者が多い。若者が市外に多く転出することで、人口減少、まちなぎわいの減少、市内経済の衰退、地域力の低下、社会保障関係の負担増、子どもや介護・福祉への影響、行政サービスの低下など、マイナス面の影響が増大することが懸念される。

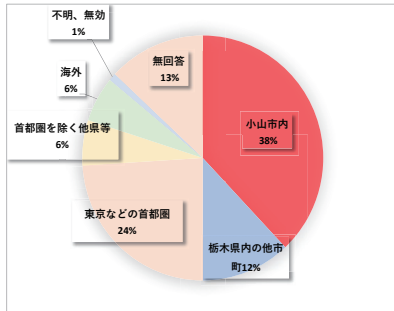


図1 将来住みたいまち

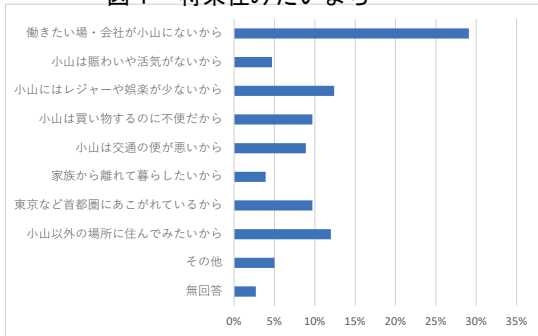


図2 小山市の市外に住みたい理由

目的

高校や大学卒業後に小山市外へ移住する若者が多いという課題から数年後、若い世代が地元に戻りたいと思えるようなまちづくりを進め長期的な人口増加につなげるために、また、若者と地域の接点を創るために何ができるかを提案する。

方法

関わる機会が少ないと考えられる、高校生と小山市で働く社会人とのつながりを持たせることを目標として、地域パートナーの紹介の元、小山市のまちづくりの関わっている人を対象に聞き取り調査を行う。また、アンケート結果をもとに、地域の在り方や若者の地域との関わり方について考える。

アンケート対象

- ・対象①
まちづくり系の仕事
- ・対象②
まちづくり系の仕事
- ・対象③
まちづくり系の仕事
- ・対象④
フリーランス
- ・対象⑤
公務員

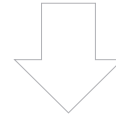
アンケート内容

- ・仕事・活動
- ・活動の背景
- ・キャリア観・仕事観
- ・小山市に抱いている想い
- ・小山市で働く・暮らす選択をした理由
- ・これからの小山市に期待すること
- ・これからやってみたいこと
- ・高校生に伝えたいこと

分析

Uターン	
内容	回答例
地域 まちづくり	・まちづくりに関わる仕事をしていた(している)
居場所 楽しさ	・学校以外で楽しめる場所があった(自分達でサッカーチームを作った)

Iターン	
内容	回答例
ワーク ライフ バランス	仕事と生活のバランスを自分で作れるようになりたい
人との 出逢い 交流	面白い人(目的・想いを持って活動している人)との出逢い



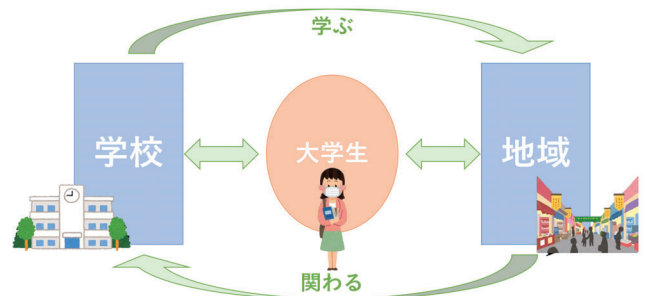
【政策提案】

- ・地域と関わる機会
- ・人(大人・地域の人)と関わる機会・場所
- ・高校生目線の楽しさ・ワクワク

提案

若者を小山市に呼ぶパターンはUターンとIターンの2通りである。Iターンする人を増やすためには市外へ情報発信し、関係人口を増やし、地域での魅力と補助金による援助の魅力を掛け合わせて移住を誘い込むことが有効である。しかし、補助金などのアプローチは我々大学生ではなく行政の方がより専門性や精度が高いものが期待され、大きな責任が伴う。そこで我々は大学生らしく、高校生を対象とした、Uターンのキッカケづくりを提案する。

地域×教育

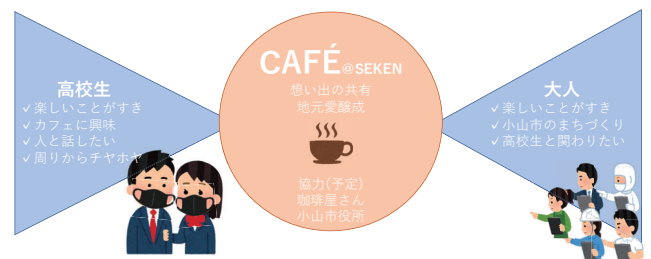


大学生が学校と地域の繋ぎ目になる

学校→地域…地域を学ぶ

地域→学校…対話する

地域×楽しさ



「何か楽しいことがしたい高校生」と「まちづくりに関連する活動をしている大人」をマッチさせる機会を提供する。高校生は地域を通じた楽しい活動のきっかけ、大人は地元に住む高校生のリアルな声がそれぞれ得られる。